

『進化は万能である』 人類・テクノロジー・宇宙の未来

筆者 マット・リドレー出版 早川書房第二章 道徳の進化

〈第二章序章〉

・道徳自体、キリストから与えられたものでなかったらどうなるか？仲良くやっていく方法を見つけようとする人々の、社会的相互作用の自然発生的な産物なのか？

→道徳は自然発生的な現象である

・社会の結束の裏には、道徳的な教えではなく合理的な計算がある

・道徳は共感、何の計画に基づくわけでもなく現れ出た

・人間の本性と道徳性の進化について、その2つとも創発的、進化的な現象に関わるもの
＝人間の行動の結果にかかわるものを検討した

・『道徳感情論』 →(異を唱えた)道徳は教え込まれるもの

何を教えるべきかをイエスが語ってくれなければ存在すらしない

・子どもが大人になる過程で各自の心中で、そして社会の中でも、互惠的応酬によって発達
→道徳性は、人間の本性の相互作用によりその結果として、社会的状況に反応して出現する

・子どもは道徳の観念を持たないので、自分が宇宙の中心ではないことを、苦勞して学ばなければならない

・自分の良心を体現する中立的な観察者を想定することで、他者の反応を見ながら道徳的に振る舞うことが出来る

〈道徳性はどのように現れ出るか〉

・スミスからしてみれば、社会の中で相互的同感を探し求めることで自らの道徳律を定めうる

→道徳性は自然発生的な現象であり、道徳家はそのあとそうした慣習を観察して記録し、それを逆にトップダウンの教えとして人々に指導

＝これは文法の教師に似ている

・同性愛を非難することは、だんだんと受け入れられなくなる

→この変化は誰かが命令したのではなく、普通の人どうしの道徳的なやりとりが社会の中の共通の見方を徐々に変えた。

・その過程で、道徳の教え手たちがその変化を反映するようになった。また言語との類似性もある。

→道徳が文字通り進化したのだ

・頻繁に繰り返される判断のパターンは、上から下された戒律にさえ見えるようになりうるし、逆に繰り返されないものには軽い信頼しか得られない。

→道徳を見出すのは体験という乱雑な経験主義の世界である。

〈より善き天使たち〉

・道徳とは行動を合わせているうちに生じる、偶然の副産物、平和な社会に暮らす人間が相互間で影響し、新たな秩序が形成される現象

→時の経過に伴って発展していく

・中世に育った人→自分の名誉や町のために人を殺す＝道徳的

⇔今日→肉食を拒み、慈善目的で多額の寄付を行う＝道徳的

・道徳性は進化する→道徳は相対的で、異なる社会では異なる終着点に行き着く

・暴力の減少は目覚ましい。この減少は、今後も続くだろう

・文明化の過程のおかげで、ヨーロッパ人の習慣は劇的に変化した。人々が都開に密集して暮らし、資本主義的で世俗的になるにつれ、品行が良くなった

↳「道徳性は進化する」

・現在では当たり前の礼儀作法←わざわざタブーな行為を禁じなければならなかった

=現代の基準に照らすと中世ヨーロッパの生活は胸が悪くなるようなものだったと伺える

・たしなみや自制、配慮といった習慣は、身につける必要があった

・時の流れに伴って、人々は次第に衝動を抑え、他者の考えや気持ちを考慮に入れるようになった

・小さな犯罪を許さないことが、大きな犯罪を許さないことにつながる割れ窓理論の史実版（「建物の窓が壊れているのを放置すると、誰も注意を払っていないことの象徴になり、まもなく全ての窓が破壊される」という考え方）

〈温和な商業〉

・私たちが公平な観察者をよりどころにする要因は政治と商業の2つ

→これらによって上品な習慣を獲得

・「温和な商業」とは人間の暴力、不寛容、憎悪を和らげる効用を持つ取引

→正しさが立証されてきた

・商業を暴力と同等にみなせない

→ピンカーの自伝的話から

・資本主義に参加すればするほど利己的で個人主義的で無思慮になる？

→資本主義国の方が、暴力が少なく平和

・道徳心と暴力の進化は自然発生的現象

→私たちがこの現象を起こしたのではなく、それが私たちに起こった

<法の進化>

- アングロスフィアの人々が政府を起源としない法に基づいて生きていることは驚くべき事実だ。
- コモンローとは誰が定めたわけでもなく人々の間で自然に定まった倫理規範を指す。ほとんどの制定法とは違い先例や当事者の申し立てを通して現れ出てきて進化する。
- 対照的にヨーロッパ大陸で遵守されているシビルローは一般に政府が制定する。
- イギリス伝統のボトムアップの立法と大陸のトップダウン方式の伝統が競い合うのは健全だと言える。だが、筆者が強調したいのは生み出されるのではなく現れ出てくる法を持つことが完全に可能である点だ。
- 複製と変異と淘汰を通して進化するのはコモンローだけではない。シビルロー、さらには憲法解釈でさえ徐々に変化し、その中には定着するものもあれば、そうでないものもある。どの変化が定着するかは淘汰の過程で決まる。その結果、外部の力に帰することではなく、進化の観点に立つことでこの制度の核心が説明可能になる。
- 進化は「私たちが経験する時間と空間に内在する、規則に基づいた原因」なのだ。